

# 令和元年度 上越市・妙高市在宅医療・介護連携推進協議会 実務担当者会議を開催しました



2019年9月26日（木）  
上越市福祉交流プラザ

実務担当者会議では、4つの専門部会の進捗状況の報告・意見交換と、令和2年度以降の協議会の取組方針について検討されました。

※各部会の進捗状況と今後の課題については別紙参照

■主な意見は次のとおりです。

## <入退院時支援部会>

○病院が地域連携連絡票を活用していない要因を探っていくことが大切。包括を巻き込みながら、ベースとなる考え方を共有していくことが重要でないか。

○計画では、精神科病院と地域との連携について状況把握をするということだったが、現状はどのようなか。

→連携室のネットワークを活用し、今後行っていく予定。

## <多職種連携推進・研修部会>

○多職種研修リーダーとしての役割はどのようなか。→9月に入退院時支援部会とのコラボで多職種研修リーダーに参加していただき、ファシリテーターを担ってもらった。12月に3年間の研修参加者のフォローアップ研修を予定しており、今後活動の場についても考えていきたい。

## <ICT連携部会>

○推進センターの相談も増えているのではないかと。→相談の60%はICT関連になっている。活用に関する具体的な相談も多く、ICT連携部会の影響がとても大きいと思う。

## <普及啓発部会>

○今後の課題から考えると、対象となる世代、内容の整理から、3パターンくらい必要になってくるのではないかと。

○市民への普及啓発の機会を増やし、経験値を上げて、シナリオを充実させ次年度につなげてほしい。

## <全体を通して>

○連携の質を上げていく取組が必要。連携の形はできたが、連携の仕方（ほしい情報など）を考えていく必要がある。

○3年間の取組を整理すると、①地域連携連絡票の有効活用 ②退院時カンファレンスの質の向上 ③サービス担当者会議の質の向上 ④MCネットの日常的な活用 が大切。包括単位がキーワードになってくるので、地域ケア会議等と連動させて、多職種研修リーダーの活躍も考えていけるとよい。

## ■令和2年度からの協議会の取組方針について

○これまでの取組・課題から、①退院時支援の連携強化 ②援助を行う専門職のスキルアップ ③市民への普及啓発強化 ④急変時の対応や予測に関する取組強化 の4つの課題に整理し、新たな部会体制で取組を行うことを事務局より提案し、意見をいただきました。

○委員からは、部会間の内容が重なりすぎないようにすることや、協議会の目指す方向や部会のゴールの見える化、さらに、次期委員の推薦依頼に関しては、その職種に期待することも含めて職能団体への依頼が必要と意見をいただきました。

令和元年度後半は、3年間のまとめを各部会で行い、来年2～3月に行う実務担当者会議において、新体制の承認をいただく予定です。

